



★22★

渡辺 大直

花が咲き、子どもたちが入学や進級し、希望に胸を膨らませる季節になった。還暦を過ぎたおじさんだが、実は私も胸を膨らませている。それと一つのも、今年、但馬牛博物館をリニューアルすることになったからだ。

但馬牛博物館は、但馬牛の歴史や特徴などを来園された人知ってもらおうと、1994年、牧場公園のオープンと同時に開館した。それから20年余、スーパーエース種雄牛「谷福土井」の剝製を作り、説明ビデオを作り直したりしたが、展示内容は開館当時のままだ。

1998年ごろ、他県で従来の常識を覆すくらい大きく、但馬牛よりたくさん霜降りが入る能力を持った種雄牛が現れ、但馬牛を買いに来る

産地が減った。そして、県外の血統を交えない但馬牛の閉鎖育種を、見直すべきではないかという議論も巻き起こった。

そんな時、この但馬牛最大のピンチを救う種雄牛ができた。そして但馬牛生産農家や技術者が協力して、コンスタントに能力の高い種雄牛が

肉や但馬肉が地域団体商標に登録され、兵庫県で生まれた但馬牛を兵庫県で育て、兵庫県でと畜したものだけが神戸肉や但馬肉になる兵庫県固有

黒毛和種で但馬牛を祖先に持たない牛はまずいないのに、県外に出る子牛が減ると、但馬牛は他県の黒毛和種と最も血縁が遠い、特異的な存在になった。

そして、12年から輸出が始まり、米国やEUなどでも商標登録され、15年には地理的表示保護制度に登録されるなど、国際ブランドに成長した。去年から、人と自然の博物館、神戸大学をはじめ但馬牛の団体や美方郡2町の協力を得て、どんな展示にするか検討している。

一般の人に但馬牛を理解してもらい、但馬牛生産農家にも参考になる情報を発信できる。そんな博物館にしようというワクワクしながら頭をひねる今日この頃だ。

新歴史加え博物館刷新へ



展示内容を一新して生まれ変わる予定の但馬牛博物館内＝新温泉町丹土

■筆者プロフィール■
わたなべ・ひろなお
1954年、新温泉町浜坂出身。県職員として畜産行政に長年携わってきた。県立但馬牧場公園「但馬牛博物館」館長。